



おかげさまで第一生命は、2012年9月に  
創立110周年を迎えます。

2012年7月13日  
第一生命保険株式会社

---

## 第30回「全国小学生テニス選手権大会」への特別協賛について

---

第一生命保険株式会社(社長 : 渡邊光一郎)は、2012年7月28日(土)より開催される「第30回 全国小学生テニス選手権大会(公益財団法人日本テニス協会主催)」に特別協賛します。

本大会は、1983年に創設され、毎年、各都道府県の地区大会で上位成績を収めた選手が出場し小学生日本一を決定する大会です。これまでに、杉山愛さん、ロンドンオリンピック代表に選出された錦織圭選手・添田豪選手、フェドカップ(女子国別対抗戦)に出場している奈良くるみ選手、ウィンブルドン・ジュニア選手権2010で準優勝した石津幸恵選手など国際的に活躍する選手を多数輩出してきました。第30回を迎える今年の大会には4,062名の中から勝ち抜いてきた96名の選手が出場します。

当社は、「世界に通用する選手育成のためにはジュニアからの強化が重要である」という公益財団法人日本テニス協会の趣旨に賛同し、社会貢献活動の一環として、第1回大会より30年間にわたり特別協賛するとともに、当社所有のクレイコート(※)を大会会場として提供しています。クレイコートがジュニアの試合で使用されることは珍しく、さまざまな経験を積むことで世界で活躍する選手の育成につながるものと考えております。

当社は「社会貢献活動の取組方針」に基づき、「良き企業市民」として持続的に発展することを目指して、今後も社会貢献活動に取り組んでまいります。

※クレイコートとは、土でできたコートのこと。地盤の上に碎石や砂利、赤土、粘土、化粧砂などを重ねた構造をしている。

## ■「第30回 全国小学生テニス選手権大会」大会概要■

(1)開催期間:2012年7月28日(土)～30日(月)の3日間(予備日:7月31日(火))

(2)開催会場:第一生命相模園(そうごえん)グラウンドテニスコート

※東京都世田谷区給田1-1-1

(3)出場者:全国の9ブロックの地区予選(総参加者4,062名)を勝ち抜いた男女96名

・男子シングルス 48名、女子シングルス 48名

・トーナメント方式による試合

(4)日中小学生精英対抗戦大会への派遣

出場選手の中から、優秀な成績をあげた男女各2名(計4名)を中国北京市で開催される標記大会に派遣します。

(5)ファミリーミーティングの開催

技術だけでなく、世界に目を向けた選手に育つことを目的として、大会前日のレセプションにおいて選手・コーチ・家族を対象に以下の講演会を開催します。

①タイトル:「ウィンブルドンの風に誘われて」

講師:沢松奈生子さん

(日本女子テニス連盟名誉会員/日本オリンピック委員会事業・広報専門委員/元フェドカップ代表選手)

②タイトル:「日本人が目指すプレースタイルと強くなる選手の特徴」

講師:米沢徹さん

(元日本テニス協会強化委員会委員/元ナショナルコーチ)

※講師のお二人のプロフィールは(別紙1)を参照ください。

(6)運営

- ・主催 公益財団法人日本テニス協会
- ・特別協賛 第一生命保険株式会社
- ・後援 読売新聞社
- ・協賛 株式会社フミヤスポーツ、株式会社クラミツプラモート、ブリヂストンスポーツ株式会社
- ・協力 株式会社東印度カレー商会

(別紙1)

<沢松奈生子さんプロフィール>

日本の女子テニス界の黄金時代を築いた、元プロテニスプレーヤー。スポーツに関する講演では、国際化・グローバル化などの持論を展開し、テニスの実技指導なども行う。また、一児の親となった現在、自身の経験を交えて、子育て論、英才教育などについても講演し、各地で好評を得ている。

夙川学院高校では高校総体優勝。神戸松蔭女子学院大学入学と同時にプロ転向。シングルス自己世界最高ランキングは14位(日本ランキングは1位)。WTAツアーでシングルス優勝4回(すべて海外大会)。

1988年 15歳6ヶ月(高校1年)の若さで全日本テニス選手権の女子シングルス初出場初優勝を果たす。

1995年 全豪オープン選手権の期間中、阪神・淡路大震災が発生、自宅全壊の被害に遭うも、この全豪オープンで4大会の自己最高成績を記録し、ベスト8。(ご家族は全員無事。)

キャリアを通して、10年間にわたり世界ランキングトップ30位台以内を維持。4大会でも「34大会」連続で本戦にストレートイン。

1992年バルセロナオリンピック、1996年アトランタオリンピックの2度出場。

<米沢徹さんプロフィール>

元デビスカップ日本代表選手。日本国内ランキング最高位シングルス3位、ダブルス1位、世界ランキングシングルス300位。

「盛田正明テニス・ファンド」のコーチ兼マネージャーや、ジュニアデビスカップ、ジュニアフェドカップの監督を務めたほか、錦織圭選手を3年間、奈良くるみ選手を2年間指導した。

現在は TEAM YONEZAWA 代表としてジュニアの育成に力を入れている。

# 過去の大会記録

於:第一生命相模園テニスコート

開催日程・参加数	男子シングルス決勝		女子シングルス決勝	
第1回大会・各32名 昭和58年7月27日～29日	山本育史 (静岡・熱川) (5-6, 7-5)	増田健太郎 (神奈川・鉄) (6-2, 6-3)	山岸依子 (東京・本町田東) (6-2, 6-3)	原 広子 (神奈川・宮上)
第2回大会・各48名 昭和59年7月28日～30日	原田夏希 (東京・大塚) (5-3, 7-5)	脇 三郎 (神奈川・緑) (6-2, 6-3)	山本祐子 (神奈川・北大和) (6-2, 6-3)	沢松奈生子 (兵庫・安井)
第3回大会・各48名 昭和60年7月29日～31日	山下大介 (千葉・玉造) (5-4, 6-6, 6-2)	松鷹裕介 (千葉・村上東) (5-4, 6-6, 6-2)	横堀由紀 (千葉・幸町三) (6-2, 6-4)	堀田朋愛 (富山・柳町)
第4回大会・各48名 昭和61年7月30日～8月1日	喜多 渉 (神奈川・本町) (5-4, 7-5)	山下大介 (千葉・玉造) (5-4, 7-5)	堀田朋愛 (富山・柳町) (6-0, 6-1)	永富恵子 (大阪・箕面)
第5回大会・各48名 昭和62年7月29日～31日	岩淵 聡 (神奈川・東海岸) (7-6, 7-5, 6-3)	山本貴美 (静岡・熱川) (7-6, 7-5, 6-3)	堀田朋愛 (富山・柳町) (7-6, 7-5, 6-3)	横堀美紀 (千葉・幸町三)
第6回大会・各48名 昭和63年7月29日～31日	鈴木貴男 (北海道・手稲山口) (6-1, 6-3)	芳野 猛 (神奈川・大清水) (6-1, 6-3)	九鬼まどか (東京・玉川学園) (7-5, 6-2)	竹村りょうこ (神奈川・花水)
第7回大会・各48名 平成元年7月29日～31日	石井弥起 (千葉・鎌ヶ谷北部) (5-4, 6-3)	佐々木剛 (東京・ジャパンインターナショナル) (5-4, 6-3)	為石景子 (埼玉・幸松) (6-2, 6-2)	井上青香 (沖縄・内閣)
第8回大会・各48名 平成2年7月29日～31日	福本 純 (大阪・長瀬南) (5-1, 6-0)	寺地貴弘 (大阪・新田) (5-1, 6-0)	西俣泰子 (北海道・青柳) (6-3, 7-5)	小畑沙織 (北海道・前田)
第9回大会・各48名 平成3年7月29日～31日	寺地貴弘 (大阪・新田) (5-0, 6-2)	小林真吾 (宮崎・生目台東) (5-0, 6-2)	森上亜希子 (大阪・帝塚山学院) (6-1, 6-3)	和田奈々 (神奈川・玉川学院)
第10回大会・各48名 平成4年7月28日～30日	田口亮太 (千葉・常盤平第三) (7-5, 6-0)	菅原高迅 (石川・田上) (7-5, 6-0)	手塚玲美 (東京・給田) (6-4, 3-6, 6-2)	西田純子 (大阪・南桜塚)
第11回大会・各48名 平成5年7月28日～30日	堂野大和 (大阪・金岡) (5-1, 6-2)	大関善一 (千葉・鎌ヶ谷) (5-1, 6-2)	安井 茜 (埼玉・中野) (6-1, 7-9, 6-3)	青山香織 (東京・多摩第二)
第12回大会・各48名 平成6年7月28日～30日	比嘉明人 (沖縄・伊江) (7-5, 7-5)	近藤大生 (愛知・知立) (7-5, 7-5)	福井由佳 (京都・倉橋) (6-2, 6-4)	藤後 里 (千葉・日井)
第13回大会・各48名 平成7年7月28日～30日	軸丸真志 (千葉・印旛村平賀) (5-3, 6-0)	伊賀星道 (岡山・東陽) (5-3, 6-0)	井上万里 (静岡・三方原) (7-6, 7-4, 6-2)	細川雅代 (埼玉・大畑)
第14回大会・各48名 平成8年7月28日～30日	添田 豪 (神奈川・小糸) (5-3, 3-6, 6-4)	清水俊輔 (東京・立川第九) (5-3, 3-6, 6-4)	福井久美 (京都・倉橋) (6-0, 6-4)	荒川 望 (埼玉・小谷)
第15回大会・各48名 平成9年7月28日～30日	羽石 祐 (東京・成蹊) (5-6, 6-4, 6-2)	丸山祐一 (群馬・安中市立雄東) (5-6, 6-4, 6-2)	田中姿帆 (富山・婦中町立流星) (6-2, 6-2)	前田杏梨 (東京・白百合学園)
第16回大会・各48名 平成10年7月28日～30日	宮腰洋人 (神奈川・川崎市立野川) (5-0, 6-1)	佐藤直也 (香川・高松市立川岡) (5-0, 6-1)	不田涼子 (兵庫・須磨浦学園) (6-4, 6-3)	高崎恭子 (千葉・柏市立十余二)
第17回大会・各48名 平成11年7月28日～30日	林 雄也 (東京・江東区立川南) (5-1, 6-1)	門司英輔 (埼玉・川口市立安行) (5-1, 6-1)	福井恵実 (京都・倉橋) (7-6, 7-3, 6-2)	川村美夏 (静岡・藤枝市立青島東)
第18回大会・各48名 平成12年7月28日～30日	喜多文明 (埼玉・浦和市立木崎) (5-3, 6-1)	会田 翔 (神奈川・藤沢市立大遼) (5-3, 6-1)	鈴木里英 (神奈川・鎌倉市立第一) (6-1, 6-4)	加藤理奈 (千葉・習志野市立谷津)
第19回大会・各48名 平成13年7月28日～30日	錦織 圭 (島根・松江市立乃木) (5-2, 6-1)	長谷川祐一 (愛知・名古屋市長志段味西) (5-2, 6-1)	加藤茉弥 (埼玉・上尾市立上平) (6-1, 2-6, 6-4)	伊藤絵美子 (静岡・御殿場市立御殿場)
第20回大会・各48名 平成14年7月28日～30日	竹島駿朗 (群馬・高崎市立浜尻) (7-5, 6-3)	守屋宏紀 (東京・町田市立小川) (7-5, 6-3)	加藤春奈 (愛知・名古屋市長庄内) (6-2, 6-4)	奈良くるみ (兵庫・川西市立牧の台)
第21回大会・各48名 平成15年7月28日～30日	鈴木 昂 (滋賀・大津市立藤尾) (5-0, 6-3)	関口周一 (神奈川・海老名市立上星) (5-0, 6-3)	奈良くるみ (兵庫・川西市立牧の台) (6-4, 6-3)	井上 雅 (愛知・春日井市立篠原)
第22回大会・各48名 平成16年7月28日～30日	内山靖崇 (北海道・札幌市立福住) (5-2, 6-0)	斉藤 秀 (神奈川・藤沢市立御所見) (5-2, 6-0)	石津幸恵 (北海道・北村立北村) (4-6, 6-4, 6-1)	岡本佳奈 (大阪・豊中市立北丘)
第23回大会・各48名 平成17年7月28日～30日	村松勇紀 (千葉・柏市立旭東) (5-6, 6-3, 6-3)	池川浩史 (香川・坂出市立川津) (5-6, 6-3, 6-3)	牟田口恵美 (東京・目黒区立鷹番) (7-5, 6-3)	日比沙織 (神奈川・川崎市立白山)
第24回大会・各48名 平成18年7月28日～30日	村松勇紀 (千葉・柏市立旭東) (5-1, 6-1)	遠藤 実 (三重・四日市市立常盤西) (5-1, 6-1)	尾崎里紗 (兵庫・神戸市立つじが丘) (6-4, 0-6, 7-6(2))	小和瀬望帆 (埼玉・三郷市立前岡)
第25回大会・各48名 平成19年7月28日～30日	西岡良仁 (三重・津市立薬正) (6-1, 3-6, 6-3)	沼尻啓介 (茨城・つくば市立栄) (6-1, 3-6, 6-3)	辻 佳奈美 (大阪・河内長野市立美加の台) (6-3, 6-4)	田中千愛 (大阪・茨木市立春日)
第26回大会・各48名 平成20年7月28日～30日	松村 亮太郎 (福井・福井市立日之出) (5-3, 6-2)	中川直樹 (福井・福津市福間南) (5-3, 6-2)	玄田夏楠 (石川・津幡町立英田) (6-1, 4-6, 7-5)	渡辺仁美 (東京・調布市立蒲坂)
第27回大会・各48名 平成21年7月28日～30日	山崎純平 (埼玉・春日部市立武里南) (5-6, 6-3, 6-0)	加藤彰馬 (神奈川・横浜市立奈良の丘) (5-6, 6-3, 6-0)	荒川夏帆 (東京・江戸川区立藍海) (7-5, 6-4)	佐々木遙 (神奈川・藤沢市立臨洋)
第28回大会・各48名 平成22年7月28日～30日	大島立暉 (富山・射水市立大門) (6-3, 6-2)	山中恭兵 (千葉・野田市立南都) (6-3, 6-2)	相川真侑花 (東京・私立東京女学院) (6-1, 7-5)	伊藤沙弥 (兵庫・西宮市立大社)
第29回大会・各48名 平成23年7月28日～30日	堀江 亨 (岐阜・関市立桜ヶ丘) (5-3, 3-6, 6-3)	田形諒平 (神奈川・川崎市立南百合丘) (5-3, 3-6, 6-3)	本玉真唯 (東京・町田市立南大谷) (6-7(5), 6-4, 6-4)	坂田季美佳 (和歌山・橋本市立三石)